

## 日本あちこち河川遡行記（第280回）

奈良1-6-2. 葛城川（その2） 令和1年8月8日（木）晴

夏の暑さにも負けず今日も出かける。本来なら6日（火）に出かける予定で早特切符を用意していたが、当日は寝不足で体調が良くないのと台風8号接近で旅行取りやめの場合全額払い戻しをしてくれるので岡山駅まで行って取りやめ、切符をキャンセルした。

今日は青春18切符利用で朝早い姫路行きに乗る。途中の網干駅で始発の新快速に乗り換える。大阪で大和路快速、王寺で高田行きに乗り換え終点で下車10時56分に着き11時5分発の広陵町営バス「元気号」に乗るため400mほど北の近鉄大和高田駅に急ぐ。18切符使用なので極力JRを使わなそん、そん。先日帰路に利用した元気号は北東部支線だったが、今日は派手な中央幹線のミニバスで、既にバス乗り場の外れで待っている。間に合ってよかった！



01.今回調査区間位置図



02.近鉄大和高田駅から広陵町コミバスに乗車

10分ほどの乗車で目指す「南郷市場」バス停で下車。元気号のバス停標柱はどれも真新しく、てっぺんには「かぐやちゃん」が描かれている。バス停位置は道路地図には記載されず、事前に調べたグーグルの道路の連続写真にも写っていないので、ここ1年ほどの間に設置されたのであろう。時刻表、経路図、運賃そして「かぐやちゃん」と素敵なバス停標柱である。



03.「南郷市場」バス停で下車

このバス停付近は「南郷環濠集落」の南端のようで、集落を囲っていた水路の名残が道沿いに有る。コミバスは集落の中央を北に縦走し役場に向かう。

今日も快晴で用意して来た日傘をさして東の土手に向かう。暑いが前回のような異次元の暑さではない。500mほど歩き土手に登る。手元の温度計で日向の温度を測ると早36度になっている。今日は無理をせず5kmのコースで近鉄南大阪線の「浮孔」駅を目指す。

左岸側の大規模自転車道と道が併設されている土手道を南に向かう。近鉄南大阪線の鉄橋の塗装履歴が分かり易く見える。5年前に塗り替えられた橋桁の上塗りに「フッ素樹脂塗料」が使用されている。道路橋では最近大半の橋に使用されている塗料で、対候性に優れ見栄えも良い塗料であるが、JRは採用していないようでここまで出会わなかった。近鉄はフッ素を採用したようだ。鉄道橋は走る列車の車輪とレールからの微鉄粉が桁の下フランジ付近に溜まり、これが錆びてそのもらい錆が桁に発生するので、耐久性に優れたフッ素を使用してももらい錆から塗り替えが決まることを考えたのがJRだろう。もらい錆にも負けない実績がここで実証されれば良いだろう。

土手の踏切から橋の前後を見ると近鉄名物の33.3%勾配の線路が目につく。



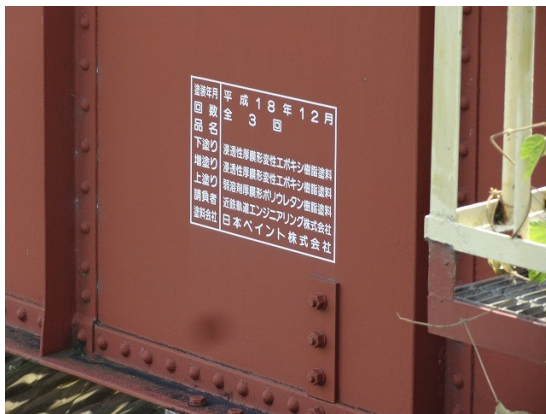
04.近鉄は鉄道橋にフッ素樹脂塗料を塗りだした



05.近鉄名物の 33.3%勾配が橋の前後に

自転車道は土手道の横に並ぶ区間と土手下を走る区間が混在する。土手の上下は敵わないので車が通過する土手道を進む。時折速度を落とさずにギリギリを通過する不届きものも居る。JR 桜井線の下を潜り南下を続ける。滴る汗を腰タオルで拭うが終わるとまた出てきて馳ごっこである。

やがて近鉄南大阪線の鉄橋に着く。桁には塗装履歴が記載され、こちらは極普通のポリウレタン樹脂塗料である。桁の中ほどの高さの内側に線路が有る中路橋で、もらい錆が桁の外側に出ないので見た状態はゲーである。このタイプにこそフッ素が良いのだが・・・。



06.南大阪線の橋は一般的なポリウレタンだ



07.この橋は桁の中ほどに線路が有る中路橋だ

線路を越え次の自転車道専用の新しい橋を渡ると近鉄南大阪線、吉野線のピカー特急「青のシンフォニー」が通過して行く。地味な暗い色合いで、JR 西の瑞風を更に地味にした色で夢が無いなー。かつての近鉄は日本の車両のデザ



インをリードしてきたが、今は新幹線を除き全国至る所で個性的な車両が生まれてきているので頑張ってる。



08.南大阪線、吉野線の豪華特急が通過

予定していた高田市道の「勝目橋」を見て最寄りの「浮孔」駅に向かう。変わった名前の橋と駅だ。ここから阿部野橋までは18切符が使えないが仕方おまへん。

クーラーの風が天国の様な至福の帰り道である。今日もビールが旨いだらう。

本日の歩行距離：5.6km。調査した橋の数：15。

総歩行距離：10,518.5km。総調査橋数：13,491。

使用した1/25,000地形図：「桜井」（和歌山1号-4）